

第 2 回 津島市総合計画審議会議事録

日時：令和 2 年 11 月 20 日（金）

午後 2 時から

場所：津島市役所 5 階 第 1 委員会室

（出席）

江口忍委員、千頭聡委員、三浦哲司委員、伊藤久夫委員、青木啓委員、浅井彦治委員、石原弘乙委員、加藤文規委員、小出英一委員、小坂井智弘委員、佐藤彰記委員、古江俊博委員、前田明美委員、安田清時委員、山本達彦委員、横井一雅委員、服部綾子委員、吉田祐衣委員

（欠席）

なし

【配布資料】

資料 1 津島市総合計画審議会委員名簿

資料 2 第 1 回津島市総合計画審議会議事録

資料 3 第 5 次津島市総合計画骨子（案）

資料 4 第 5 次津島市総合計画（案）第 1 編 序論・第 2 編 基本構想・第 3 編 基本計画総論

資料 5 第 5 次津島市総合計画（案）第 3 編 基本計画 3-2 分野別計画

1 開会

前回欠席の本日出席委員の紹介

前回の指摘事項等についての説明

- ・市民意識調査において回答をミスリードした可能性のある設問について
- ・満足度と重要度の設問、回答結果の詳細について

会長あいさつ

（会長）

みなさん、こんにちは。

前回の会議は初回だったが、委員からたくさんご発言があった。今日も活発な議論ができればと考えている。

それでは、早速だが議事に入らせていただく。

2 議事

（1）第 5 次津島市総合計画（案） 序論・基本構想について

（会長）

議題 1 は序論と基本構想で項目が 2 つあるので、まず序論について事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

資料3、資料4に基づき序論について説明

(会長)

今の説明に関して、ご質問、ご意見があればお願いします。

今回は、ご意見をお持ちの方に挙手いただき、発言していただく。

(委員)

全体的には異論はないが形式的なことについて、関係人口など新しい概念が出ている。これを知らない人が読むと、何のことかということになりかねないので、冊子を作る時に解説を入れるなどの工夫が必要だと思う。関係人口、SDGs、Society5.0などを踏まえたものであり、内容は良いのであるが、広く理解してもらうには語句の解説が必要である。

(事務局)

製本する際には、計画書の後ろに用語集を付けることを考えている。

(委員)

既存の市街地のスポンジ化への対策と同時にコンパクトシティの方向が必要ということは、矛盾するともとれる。現実的には既成市街地は空洞化していくが、同時に人口を維持していくためには、住宅の供給が必要ということになると矛盾することとなるので、スポンジ化をコンパクトシティに転換する際にはどういう方策が必要なのかしっかり考えるべきである。

新技術については、3ページの下や、5ページでも新技術の導入による地域経済の活性化に触れているが、津島市は新技術の導入がないと経済が活性化しないようにも見える。新技術の導入について、地域経済の活性化で想定している新技術は何か。地域経済活性化のためには新技術の導入がメインならよいが、少し違和感がある。

(事務局)

矛盾するような部分、新技術については、分かりにくいところがあるので、注釈を入れることなどを検討する。

(委員)

7ページのまちの魅力について、津島の顔、玄関の駅については、平成17年から名鉄とタッグを組んで情報交換してきたが、あそこは7つぐらいの印鑑が揃わないと動かない特殊な駅であり、相当時間とエネルギーがかかるので、やるならやると理由をきちんと作った方がいい。名鉄がやらないことをなぜ市がやるのかなど整理して、本腰を構える必要がある。開発となると専門プロジェクトチームがあってこそ動かすことができる。

(会長)

事務局は意見を聞いてもらうことにするのでこのまま進行する。

ここまで議論してきたが、このスタイルの議論をするとなかなか意見が出ない。計画案ができていて文面があり、おかしいことはまず書いていない。そうすると字句の指摘はあっても、根本的なことは言いにくくなる。前回、皆さんにフリーにご発言いただいて、駅のあり方、若年層のこと、子育て支援、教育など多岐にわたってご発言をいただいた。

今回、序論、基本構想、基本計画と分けて議論するが、どこに何が書いてあるのは分からないが、皆さんが素朴に読んだ感覚について、自由に発言いただきたい。前回の発言と同様でも構わない。フリーにご発言いただければよい。

(委員)

基本計画の4章に重点戦略の推進が示されている。重点はこれが大事なことでであると捉える。重点としていきなりSDGsが示されているが、あまねく誰も取り残さないという概念なので、何が重点なのかと思う。

(委員)

最近の計画の文書には安全、安心という言葉が出てくる。安全と安心は異なり、市民は安心を求めているが、安全は何%という数字の話である。資料5には数値が出ているが、具体的にどこまでどれだけやるのか議論の中でイメージしながら進めて欲しい。

安全というのは基本的には何%安全ということになる。計画立案の時に、どれぐらいどうやるのかという切り口を持ってほしい。

(委員)

前回の会議から時間的には経過しているが、これだけまとめることは大変だったと思う。これが出来上がる前には、どのような会議が行われ、人が関わったのか。

(事務局)

事務局である企画政策課が中心となって進めてきたが、全庁的に各課が関わることであり、庁内の各課において内容を精査しているほか、課長級の策定会議、部長級の策定委員会でも検討を行ってきた。

ほかにも、市民の皆さんにご参加いただいたつしま未来会議、庁内の若手職員によって構成するワーキンググループにおいても重点課題や実施する取組などを検討した。

(委員)

全体として総花的に構成されていくと思うが、特に津島市の総合計画の特徴、ほかとは異なる点、メッセージ性があることが見えてこない。満足するが感動しない。人は100点を目標とすると100点を達成すると満足するが、101点となると驚いてアクションが起きて人が動き始める。強いメッセージ性を持った感動するようなところをどこに持ってくるのか、はっきり打ち出すと市民にも分かりやすい。

(会長)

前回の議論がとてもよかった。それぞれの立場から津島市に対して感じている課題を提示いただいた。

その中で気になったのは、子育ての話である。転出超過で人口が愛西に抜けている。なぜかと言うと子育ての環境が近隣より負けているからと思われる。気になったのは、本当に近隣市に対して劣るのか、イメージなのか。本当に劣位なら直す必要があり、少し前のイメージが引きずられているならそれを是正していくべきである。市としてはどちらの認識か。

(事務局)

劣っているかどうかでは、市としては子育て支援についてPR不足もあるが、充実してしっかりやってきた。

(市長公室長)

いろんな部門で飛び抜けているところ、劣っているところが自治体にある。保育料については、津島市としては国の基準に基づいて行っているが、周辺自治体が独自に上積みしているなど差が出ている部分がある。子育て・医療については改善してきたが、ほかの自治体がプラスしている場合と比較するとその水準になっていないこともある。こういった中で、子育てサービスのソフト面でカバーしてきた。

(委員)

昨年、市立幼稚園に研修に行ったが、先生が工夫していろいろな道具を手作りしていた。ところがトイレを流す時は引っ張るタイプのトイレで驚いた。幼稚園にももっと予算が配られるとよい。新技術の開発もよいが、優先順位はどうかと思う。

(津田副市長)

子育て世代の転出はいろいろな要素が絡み合っている。年配の人よりも収入が少ないと、家賃が低いところ、広々したところで子育てしたいなら、津島市よりも愛西市と思うかもしれない。支援策で判断する方は、どちらが良いかと考えて愛西市に行く人もいるであろう。いろいろな要素が絡み合って、子育て世代は愛西市に転出していると分析している。詳しくは、もっと分析しないと分からないこともある。

子育て世代に限っては、人それぞれいろいろな思いがあって分析が難しい面がある。

(委員)

たとえば、こういう場で基本的な政策を考えることも大事であるが、子育て層にヒアリングをしたのか、今子育てしている人と周りの意見は少し違うと思う。実際のヒアリングが行われたか。あまりされていないのであれば、市役所で考えると限界やすり合わせができないのではないか。

スポンジ化している中で、コンパクトシティを進めるのかもどちらかに絞る必要があるのではないか。コンパクトの方向にすると、外から新しく入ってくるものがないという印象にな

るので、どちらかというところをスポンジ化を止めて人を増やすという方向に注力した方が良いのでは。

どうアピールするのかとなった時に、津島の子育て支援のイメージが悪いのか、実質的に劣っているかという話になるが、劣っているわけではなく、ゆっくりではあるが揃ってきていると感じるので、人が入ってくるだろうというのは101点ではなく100点満点だと思う。これが定着してきて、何か1つでも101点になる飛び抜けたものがあると感動を与えて人が入ってくることになる。新しい発想で施策を作ってみるのは良い挑戦だと思う。何をしてもよいのか分からないということなら、ヒアリングを行いどんな制度が必要か、市民の意見を吸い上げて考えてみると実際に求められてくることが分かってくるので、足りないものを補って、感動が生まれることで効果が期待できる。

(津田副市長)

今回、基本計画までの検討であるが、具体的な取組は実施計画において示すこととなる。今回は基本構想・基本計画であり、この中では具体的な取組は見えていないと思う。子育てでこういうものがあると良いという意見は、ある程度は吸い上げているつもりである。

(事務局)

意見を聞く場については、計画を策定する中で団体インタビューを実施しており、子育てサークルに対しても子育て支援センターに訪問して意見をうかがった。前回配布した資料の参考資料4で各団体へのヒアリング結果を示している。

(会長)

次のパートに移るが、議論についてはどの部分でも結構である。

今のパートについて感じたことは、津島らしさ、重点戦略にアクセントがないと感じている。子育てのことで、よそに負けないポイントを1つ作って、そこで津島らしさを打ち出していけるというご意見であった。

それぞれの委員から、津島の重点についてもご意見をいただいた。駅前について難題という話があった。駅を何とかしようとは書かれているが、どういう方向にしようかについては分からない。住む人を増やすのか、来る人を増やすのかでまちのあり方は変わる。どちらかにアクセントを付けないと虻蜂取らずになる。

では、次に基本構想について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料3、資料4に基づき基本構想について説明

(会長)

今のパート以外を含めて、ご自由にご発言をいただきたい。

(委員)

地域産業の活性化ということで働く場の多様化などを示されており、企業誘致を積極的に進めると示されている。

津島市の会社の企業規模について、雇用保険に入っている割合を調べた。医療、社会福祉・介護、小売業が多く、この分野は人出不足で、求人が出ても充足されていない。同じ規模の市町村では、あま市の方が被保険者は多い。運送業はあま市の3分の2、輸送用機械製造は半分、食料品製造業は20人にとどまり、製造については相当少ない。企業誘致の際に、平和町などの企業団地の企業誘致のイメージを持つことが大事。企業が来やすい環境づくり、しかも働く人に定住してもらうためには津島市に住む方が良好で条件も良いと総合的に整理する必要がある。企業誘致について、どのような計画を持っているのか。

津島市は愛西、弥富市などに比べて劣位なのかは、医療費などのポイントを絞れば分かるので、きちんと認めて頑張ることを考えるべきである。

(事務局)

企業誘致は現在も進めており、都市計画法に基づく開発行為等の許可の基準を定め、市街化調整区域で用地を確保している。宇治町、白浜町、鹿伏兎町を指定しており、担当課が次の事業も計画している。

(市長公室長)

製造業を中心に誘致をしており9社が決まり、今後もう少し進出を図ることができる。

(委員)

9社はほぼ決まっているのは、第5次総合計画の期間内のことか。

(市長公室長)

既に創業している企業、工事中のものを合わせて9社である。

(委員)

賑わいの話として、市内にはヨシヅヤしかない。映画館、ゲームセンターはあるが、子どもに聞くと、映画見るなら稲沢のアピタに行き、ヨシヅヤにはイオンにあるような店がないとのことである。週末に目的があればヨシヅヤに行かないこともないが、若者受けするものがもう少しあると良い。

最近ホームセンターが建ち賑わってきている。噂ではヨシヅヤがほかのショッピングセンターが入ってくるのを拒否していると聞いている。閉鎖的な部分、伝統を守ることと、新しいものを取り入れるというバランスがうまく取れていないという印象がある。

イオンが建つと若者向けの店ができて、若者が働くこともできる。イオンが無理なら、若い人が喜び、足を伸ばすところをつくることもよい。製造業などを誘致することも大事だが、津島でバイトして、そこで知り合って結婚すれば、長い目で見て定住につながるかもしれない。色々な夢や可能性を考えるとよい。

(会長)

どこの市とは言えないが、そういったケースはある。それはそこにあるスーパーが市に対して圧力かけるのではなく、市が忖度してやんわりと入れないことはある。その自治体はそれによって人口が抜けている。近隣に大きな商業施設がある自治体があり、そこに転出していってしまうことでその市は人口の草刈り場になっている。

特に子育て世代の若い人たちの人口を取るということにおいて、大型商業施設を入れるか入れないかはものすごく大きなことになる。商業施設の立地は近隣の人口の奪い合いの大きな要素になるので、個別施策の中で考えていくことになると思う。

(委員)

人口の将来展望は2千から5千人減るということであるが、10年後の現実的な数字なのか。

まち・ひと・しごと総合戦略を進める中で、人口が増えていかなかった。この人口になった時に今の行政サービスができるのか。財政的に人口を増やすための施策が入っていると思うが、将来展望は現実味があるのか。

リニアが来ることによって展望が変わるが、その受け皿をどうしていくか具体的な施策はない。東京から名古屋まで1時間かからないが、何かの特色を出さないとリニアもない方がいいという話になる。100点が101点となり輝く部分があればリニアが来る意味が出てくるので、そういった部分も示されるとよい。

(事務局)

人口については資料4の20ページにある基本計画の総論で記載している。ここでは、国立社会保障・人口問題研究所による、このままの状況で人口減少が進んだ場合の推計を記載しているほか、市が行った推計も示しており、総合計画に基づいて各種施策を進めることで人口減少を緩やかにしていくこととしている。オレンジ色の線で示した市の推計（最小）では、合計特殊出生率を現状の1.38から2030年に住民が希望する出生率1.8に上昇させることで、令和12年の人口を56,600人としている。また赤色の線で示した市の推計（最大）では、合計特殊出生率の上昇に加えて、人口の移動率のマイナスを半減して2020年以降は半減をゼロとすることで、令和12年の人口を59,500人としている。

(委員)

13ページの施策体系で保健医療、福祉サービスの維持向上を図るということであるが、足し算のようなことで大丈夫か。20年後には人口は4万人台、65歳以上が40%となる。そういった中で向上を図るという表現だけでやっていけるとは思えない。

他市では、市民の生涯教育が必要と言い切っている市もある。財政は改善策を数字で出すことができるが、ただ向上を図ると示すのでみよいか。

(会長)

委員ご指摘の記述については大まかに書いている所があるので、事務局で全般的に目を通して表現を見直すと良い。維持向上を図るとともにと書くと、それはどうやってやるのかとい

われた時にどう対応するのか考える必要がある。

(委員)

社会保障の問題は世界中で困っていて世界中で知恵を出し合っている。日本政府も政策を出しているが、地方都市として何をやるべきかを打ち出していくべきである。現在のこの文章ではいいとは思わない。

(会長)

10 ページに将来都市像が示されているが、これに関してご意見があれば事務局に連絡いただくか、今出していきたい。

住んでよかったまちは、津島市は住む人を増やす、減らさないという都市戦略ということになる。その議論を庁内で行い、居住の満足を高めることで流出を減らし、市外からも来てもらうという宣言と言える。

(2) 第5次津島市総合計画（案） 基本計画総論について

(会長)

議題2 第5次津島市総合計画（案）基本計画総論について、事務局説明をお願いします。

(事務局)

資料3、資料4から基本計画総論について説明

(会長)

今のパートを中心に、あるいはそれ以外について感じていることを自由に発言いただきたい。

(委員)

戦略4について、市民協働で進めていく方向性が出ている。市民サイドから見ると、一人の人が防災、地域福祉、コミュニティといろいろな役割をしているという見方もほしい。5つの柱のうち一つを強く回して、ほかにも連動することもある。2番の防災は緊急度が高いので、これを軸に多くの人々の協力を得ていくということで、健康づくりや地域福祉などにもつながっていく。並列で並べるよりも、緊急度の高いものをコアとして進めて、回していく発想が必要である。

101点をめざすことについて、たとえば子育てにウエイトを置くのであれば、英語教育に徹底的に特化し、小学生卒業でネイティブに近い発音で英会話ができ、中学卒業時にはTOEICを受験してかなりの点数を取れるようになっていけば、大学受験や就職の時にも大きい。そういうことがあるとわくわくする。津島に行くか塾に行かなくても英語教育に力を入れてくれるということになれば、家賃が少々高かったり、医療費の助成が少なくても、定住して津島の学校に子どもを通わせたいということになる。

オール5の通信簿を目指すのも良いが、今ある資源で強いものに力点を置く。英語に徹底的に力を入れるなら、建物を新たに作る必要はなく、ALTを補充し、学校の先生も勉強してもらうことで、県内の教育に熱心な人が津島に行こうということになる。津島市が英語に強く、大学、就職に有利となれば、自分たちが思う行政に対する希望を超え、今までにない価値が生まれてくる。コアを作ってそこに集中的にエネルギーをかけていくという発想ができればさらにおもしろい総合計画になると思う。

(委員)

資料3について、左側の第1編序論の3章について、10年後の将来展望が1、次の長期的なまちづくりの視点が2で書いてあるが、この長期は10年を超えるさらに先を見通したことか。

(事務局)

10年後の将来展望は令和12年に向けた展望で、2番目の長期的なまちづくりの視点は明確に10年を超えるさらに先を見据えているわけではなく、総合計画の策定に際して求められる長期的な展望を示している。

(委員)

4章の主要課題は、第3編の重点戦略とほぼ対応している。

右上に基本構想の3章で5つの方針、基本計画の柱となるものが示されているが、5本の柱はどこから出てきたのか見えない。必ずしも将来展望や長期的な視点から導かれていない。

課題はたくさんあり、本市を取り巻く全体の課題から5つの柱が出るべきものであるが、左の主要課題は重点戦略に紐づけようとしているからだと思う。

言葉が異なるが同じようなことが多く出ている。たとえば令和12年(2030年)度に向けた将来展望の中に「(6)安心・安全を求める市民ニーズの高まり」があるが、まちづくりの視点の中には「(6)質の高い行政サービスの提供」があり、それより短期的な本市の主要課題の中には「行政サービスの基盤整備」について示されている。

また長期的なまちづくりの視点にある、「(5)感染症対策を踏まえたまちづくり」は、まさに今日のことであり、長期的なまちづくりの視点というよりも本来なら今の主要課題ではないか。

資料3は全体として時間的なこと、整理の階層性を考えた時に読みにくい。

(会長)

私も同様のことを感じた。

(委員)

同じようなことであるが、10年のスパンの基本構想と重点戦略の分野横断型まちづくりの推進についての関係が分からない。何から導かれて、5年の道しるべが出てきたかという書き方が必要である。

(会長)

委員の方々も同様の意見と思うが、個々のパーツで書いてあることは分かるが、全体の構成で同じことが繰り返されているなど、なぜここに書かれているのか疑問を感じるところがある。事務局で改めて読み直して、違和感のない構成を考えていただきたい。順番の整理が必要と思う。

(委員)

今出している意見は、反映いただけるか。

事務局側は企画政策課と副市長は出席しているが、横のつながり連携を進めるのであれば、各課から一人ずつ臨席いただけるのがよい。市長公室から各課に話をするよりも、出席していただくとスムーズに行く。この会議が意見交換会に終わるのではなく、前向きな会議の感じがほしい。

徹底的に英語教育を行うという意見があった。私立の学校は経営的な戦略を意識して特色のあることを行っていると思うが、市としても経営的な目線を持つことがよいと感じた。

(会長)

この会の意見がどれぐらい反映されるのか分からないが、修正点などを示すことを事務局に期待する。

(委員)

基本構想があって、その後に実施計画が出されるのか。

(事務局)

実施計画は毎年度策定する予定であり、基本計画の施策に紐づく事業を示し、事業を短期的に進めるための計画となる。総合計画とは別冊になる。

(委員)

それが具体案ということになるのか。

(事務局)

そうである。各施策を進めるためにどういった取組をするのかを示すこととなる。

(委員)

それは市役所で策定されるのか、市民や専門家も検討するのか。

実施計画は、専門家やボランティアを交えた検討を行うと、新しい考え方、発想を入れることにつながるのではないかと。できれば、若い方々も含めて意見を交えて検討するとよいのではないかと。

(事務局)

今のところ想定はしていない。総合計画の中では方向性を記載し、実施する事業を実施計画で示すことにしている。実施計画は庁内でまとめることを想定している。

資料5に分野別計画があり、その中で個別の施策を示すこととなるが、その施策をどういった事業で実現していくのかを実施計画で示す。分野別計画の中には各施策に関連する個別計画を示しており、個別計画ではそれぞれの分野で専門家、市民の意見も聞いて策定しており、市のみで事業を検討するものではない。

(委員)

将来都市像として住んでよかったまちは違和感があり、10年先で住んでよかったということはどうなのか。吟味はされていると思うが、言葉としてはいかがなものか。

(会長)

時間が許せば、前回の審議会でも意見があったので、将来都市像について慎重に議論していく。

(委員)

審議会は6回で、答申もあるため、あと2回が実質の議論の場となる。

次回に将来都市像を議論して、個別の基本計画も議論することで大丈夫か。通常、基本計画の議論にかなりの時間を要する。

(会長)

そこは難しいところで、将来都市像か基本計画の個別の計画の議論が大事なのか、6回が確定されているならどこにウエイトを置くのか。そもそも将来都市像がいきなり提案されるのは珍しい。

(事務局)

回数を増やすことは難しいと思うので、残り回数は少ないができるだけ議論の時間に使いたい。

次回、将来都市像を議論する時間をつくりたい。

(会長)

重点戦略の内容は総花的と思う。背景としては、重点戦略はまち・ひと・しごと総合戦略になるので、国から補助をもらうベースになり、どんなことが該当していくか分からないので総花的にしたいということと推察している。仕方ない面もあるが、それにしても全てかという感じを持つ。これまでの議論でも津島にとって大事なことについてある程度見えていると思う。先ほどこの中のアクセントについての話もあったが、5つの戦略で21施策というのはどうなのか。少なくともこの中のアクセントが多少伝わってもよい。

委員から教育の提案があったが、とても大事なことである。岐阜市は前の市長が教育立市を

掲げ、教育で差別化していこうということで立命館附属高校を誘致しようとして断念したが、それ以降方向転換して、小中学校で近隣との差別化を図るために算数と理科の先生を加配した。それ以外にも不登校の子を受け入れる公立の中学校をつくり、教育に力を入れているイメージができた。それが一つの要因として最近では岐阜市に人口は戻ってきて転入超過になってきた。教育は都市にとってキラーコンテンツであり、どうやって近隣に抜ける人口を抑えていくのか。子育ての環境をイーブンにした上で、ほんの少し頑張ることがどの分野か分かるような重点性は打ち出した方がよい。

(委員)

質問内容については議事録とは別に書面で簡潔にご回答いただきたい。

3 その他

(1) 第3回津島市総合計画審議会

日時：令和3年1月15日（金）午後2時から

場所：津島市役所5階 第1委員会室